

地元代表協議会委員から寄せられた 「地元代表協議会で協議したい事項」

資料 3

段階	項目	内 容	協議	
第一段階	1 必要性	(1) 趣旨・全般	<p>①まずは適正配置が必要かどうかを話し合い、その必要性が確認された後、学区の設定、統合校の位置など十分に話し合えばよい。</p> <p>②学校適正配置は整理統合という一般社会の統合と同等の扱いとするのは子ども達の教育の観点から考えると違うと思う。大きな視点で協議すべきである。</p> <p>③子どもの健全育成の観点から、地域ごとの適正な学校配置を行うべきである。</p> <p>④小学校・中学校とも、自分達の子どものいる間はこのままで静かにしてほしいという考えが多い。</p> <p>⑤29年度までは今の状態が続くようなので、色々な混乱を考えるとこのままで進んで、小規模校のデメリットの改善を考えていくべきである。</p> <p>⑥現状の中でより良い環境にすることを考えるべき。統合ありきではなく、白紙状態から話し合っていきたい。</p> <p>⑦少子化が深刻であり小規模校のデメリットも理解できるが、メリットも大きい。本当に適正配置が必要かどうかを話し合い、共通理解すべきである。</p> <p>⑧花島小学校の統合に関わった当時の先生、PTA役員、保護者、自治会役員等の生の声を聞きたい。</p>	第1回 第2回 第3回
		(2) 統合の基準	⑨全国的に統合は進んでいるが、地域の状況を十分に把握したうえで基準を明確にする必要がある。国や県の基準だけで論議すべきでない。	
		(3) 教員配置 学級の規模等	⑩統合する1・2年前から交流する機会を度々もつようにする。早い段階から連絡を取り合い、自然に進むようにしてほしい。	
		(4) 施設リニューアル		
		(5) 特別支援学級		
		(6) 安全の確保	<p>⑪通学路の状況（危険な道路等）、子どもたちの徒歩での時間（個人差）等についてどのように考えているか。スクールバス等、十分協議すべきである。</p> <p>⑫学校の安全は交通事故だけでなく、通学距離が延びることで変質者等の犯罪被害のリスクが高まることも考慮してほしい。</p>	
	2 地域との関連	(1) 地域との かかわり	<p>⑬学校は、地域密着で防災施設としての役割を果たしてきた。今回の震災でわかるように、学校施設は、市及び区等、地域全体の中で適正化された場所として適用されている事を大事にすべきである。</p> <p>⑭地域によって住環境も異なり、それによって統合による影響の度合いも異なるので、各地区の事情も十分考慮すべきである。</p>	第3回
		(2) 組織等の再編		
		(3) 子どもルーム		
	3 進め方	(1) 進め方	<p>⑮子ども達の安全確保の不透明さや学校が無くなった場合のリスク面（新しい住人の転入激減、既存の人の転出増加など）を考えると、柏井、横戸地区の衰退を防ぐため、今回の適正配置の候補から柏井小を外してほしい。</p> <p>⑯協議会の内容が多岐に渡ると思われる。やがては、分科会方式にした方が進みやすいのではないかと。過去の例を知りたい。</p>	第4回 (今回)
		(2) スケジュール	⑰各校には、それぞれが持つ歴史上の特殊性がある。同窓会の費用、顕彰会の原資や制度等も知りたい。	
	第二段階	4 方向性	(1) 学区の設定	⑱学区変更や選択制ができるか考えたい。
(2) 統合校の位置		⑲新しい学校をつくり、通学時間に偏りのないようにしたり、地震対応を高めたりできるか。		
(3) 統合の手順		⑳他市では、小中一貫校を実施しているところもあると聞いている。一貫校という道もあるのでは。		
第三段階	5 跡施設	(1) 跡施設の活用		